

下水道展'24 東京 併催企画

ウォーターPPPの導入に向けて

～包括民間委託の現状と今後の官民連携～シンポジウム開催報告

事業運営支援小委員会／委員長

(株式会社日水コン/コンサルティング本部/水道事業部/副事業部長) **星信太郎**



1. はじめに

2024年の下水道展が7月30日から8月2日までの4日間、東京ビックサイトにて開催され、公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会（以下「水コン協」）も展示ブースの出展と、8月1日に併催企画「「ウォーターPPPの導入に向けて」～包括民間委託の現状と今後の官民連携～」シンポジウムを開催いたしました。

今回の下水道展は、コロナ感染症明けの2度目の開催であり、大勢の参加者が来場される盛況な展示会となりました。

その中で併催企画は、約13点の企画が実施されました。特に官民連携に掛かるテーマは4企画と多くの関心を集めています。このような背景としては、昨年度に内閣府が提示したウォーターPPPにおける上下水道への展開を公表されており、これを受けて、各協会や企業・事業体などが関心を寄せたものと推察します。

今回は「東京下水道展」で実施しました併催企画、「ウォーターPPPの導入に向けて」～包括民間委託の現状と今後の官民連携～」の開催概要を報告いたします。



写真－1 併催企画 会場の様子

2. 下水道併催企画の開催報告

(1) 開催の目的

水コン協の企画委員会の下部組織として設立している「事業運営支援小委員会」は、官民連携を中心的な検討内

容としつつ、変貌の著しい官民連携における事業への参画方法や事業体への支援策などについても整理・検討しながら、水コン協内部へ情報発信を行っています。

昨年度末から、ウォーターPPP方式の導入が求められてきており、本小委員会でもコンサルタントの役割できる立ち位置や、ウォーターPPPにおける求められる内容を整理する活動を行っています。

そこでウォーターPPPに対しての水コン協の役割を水コン協内部に発信しつつ、各事業体に向けてはウォーターPPP導入の前段となる包括委託の導入について、併催企画としてシンポジウムを実施し、水コン協の各企業がウォーターPPPに積極的に参加できることを示すこととしました。

(2) 開催概要

◆会長挨拶

本企画の開催に当たり、今回の開催主旨を踏まえて、公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会の間山一典会長より挨拶を行いました。

ウォーターPPPが始まり、官民連携が加速されている中、コンサルタントにとっては、存在価値を発揮すべき時が来たと考えており、

その中で水コン協としては、PPPの良い事例を構築することが期待されており、それぞれの立ち位置をお互い理解し、取り組むことが肝要だと述べられました。



写真－2 間山会長の挨拶

◆プログラム1 基調講演

今回の併催企画は、基調講演とパネルディスカッションの2部構成で実施しました。

最初のプログラムとしては、【包括民間委託の現状と今後の官民連携】と題して、東京大学 工学系研究科 都市工学専攻 下水道システムイノベーション研究室 加藤 裕之 特任准教授から講演を実施頂きました。



写真-3 基調講演（東京大学 加藤特任准教授）

基調講演では、以下の内容について約45分間の講演を行って頂きました。

- ・ものづくりマネジメントサイクルとPPPの状況
- ・ウォーターPPPについて思うこと
- ・長期契約と管理建設一体マネジメントの留意点
- ・モニタリングにおける課題
- ・分野横断・官民融合・広域化の組織
- ・官側・水コンサルタントへのメッセージ など

中でもパネルディスカッションでの中心的な話題である包括委託の現状について、長期委託を踏まえた官側に対するモチベーションへの提言や、中立的組織におけるモニタリング方法を示され、我々水コンサルタントが行うべき事項や提言が示されたと感じました。

また今後の官民連携については、産官学がそれぞれに研鑽を行いつつ、それぞれの分野や活動領域を尊重し合い、人材が少ない中での効率的な事業実施に向けて配慮すべき点を示して頂けたと感じました。

特に水コンサルタントは、「現場感をリスペクトし、国の指針やマニュアル通りのやり方だけではない方策の検討」について提言を頂けたと感じます。

水コンサルタントは、今後の官民連携に重要な役割を担っているため、これら提言を踏まえ、更なる成長を望むべきだと改めて感じました。

◆プログラム2 パネルディスカッション

基調講演に続き、テーマを【ウォーターPPPの導入に向けて】と題してパネルディスカッションを実施しました。本ディスカッションでは、以下の話題に基づき実施しました。

- ・導入事例におけるスタートアップ時の検討事項
- ・上記スタートアップ時における留意事項
- ・包括委託からW-PPPへの移行に向けて

パネラーとしては、以下の方々に登壇頂き、産官学のそれぞれの視点で上記話題について論じました。

所 属	役職	氏名
東京大学 工学系研究科都市工学専攻下水道システムイノベーション研究室	特任准教授	加藤 裕之
国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道企画課	上下水道政策企画官/管理企画指導室長	多田 佐和子
荒尾市企業局 総務課政策企画係	副主任	宮本 晋安
豊田市上下水道局 下水道施設課	担当長	山北 雄司
すいどう塾 (元北杜市上下水道総務課)	塾長 (課長)	小澤 栄一
インフロニア・ホールディングス (株) 総合インフラサービス戦略部	部長	大塚 淳
(株) NJS 東京総合事務所	副所長	増屋 征訓
日本水工設計 (株) 水インフライノベーション事業部	部長	小針 伯永
(株) 日水コンサルティング本部水道事業部	副事業部長	星 信太郎



写真-4 パネリスト

最初の話題である「導入事例におけるスタートアップ時の検討事項」については、既に包括委託を導入した荒尾市様や豊田市様から、実際の導入事例を中心に話を展開しました。

次に「スタートアップ時における留意事項」については、荒尾市・豊田市様における今後の展望を踏まえた意見を頂くと共に、包括委託への導入検討を実施している北杜市様（水道塾長）や国交省様から、官民連携を含む今後の事業方針の決定についてのアドバイスを頂けたと感じました。

また本セクションでは、民間企業から参画を頂きまし

たインフロニア様からも事業を実施する上で次に示す事項の意見を頂きました。

○導入前検討でお願いしたい事項

- ① 適切なPSCと追加要望の整理
- ② 現状のデータの整理と開示
- ③ 現状の業務内容・量の整理

事業者側からの導入検討時における検討要望では、これらの開示資料に基づき民間事業者として効果などについて検証が行え、参画導入の意思決定に大きな要素になることが示されました。

水コン協からは、図-1に示すように官民連携事業を進める上で、様々な業務を通して支援を行うことが出来ることを示しました。

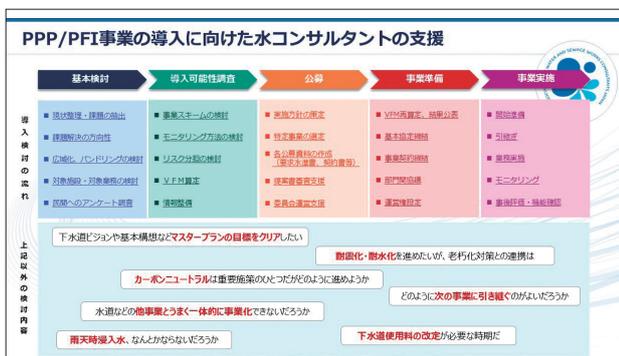


図-1 PPP/PFI事業の導入に向けた水コンサルタントの支援

前段の民間企業からの意見を反映しながら、事業者の考えを具現化して行くことも水コンサルタントとしては、重要な責務であると認識しました。

最後の「包括委託からW-PPPへの移行に向けて」については、参加者の方々からウォーターPPPに移行して行くための留意点などについて論じました。

特にW-PPPは、維持管理と更新の一体マネジメントであることを踏まえ、水コンサルタントは図-2に示すように、従前から事業マネジメント（広義のウォーターPPP）を視野に、持続と進化に向けた支援を実施してきたことを示しました。またW-PPPを発展させるための提言についても発表を行いました。

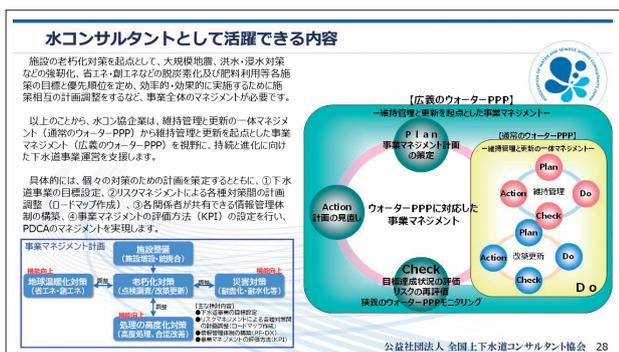


図-2 水コンサルタントとして活躍できる内容

3. おわりに

会場からの質疑では、「下水道料金値上げが今後必要となるが、市民はサービス向上よりも現状のサービスを継続し、使用料金が安価になることを望んでいる。その中で使用料金改定を行うための対応方法について」のご質問を頂きました。事業の持続を踏まえた料金計画や、事業方式が今後の重要事項であると再認識しました。

今回の併催企画の会場は、来場者の方で満員となり、表-1にも示すように、WEBを含めると600人強の参加・聴講を頂きました。

表-1 本併催企画 参加者の内訳

単位：人

	会場	Web	計
国・地方公共団体・公社	38	69	107
水コン協会員	8	301	309
大学、非会員	50	130	180
併催企画講師	9	0	9
併催企画関係者	12	1	13
参加者合計			618

官民連携事業を始めW-PPPは、産官学が協力し合っ、ヒト・モノ・カネの不足する部分を知恵や協力で補って、各事業の継続を図る手法であります。

今回のパネルディスカッションの中で、国交省様からご提示されました以下の事項が、今後の上下水道事業における解決策の一つになると思われます。

- ・関係しそうな部局は初期段階から巻き込む。分野横断型や広域型も含め、幅広に検討をスタート
- ・PPP/PFI検討会やウォーターPPP分科会等に参加いただき、仲間と情報・意見の交換
- ・最終的には、地域の実情に応じてオーダーメイドで作り上げていく

水コン協の各企業は、官民連携だけではなく、上下水道の各事業に深く精通し、かつ適切なアドバイスや事業支援が可能であると考えます。今後も様々な形で事業に参画を行って行くことが、我々の使命であることを認識できたシンポジウムであったと思います。

最後にご多忙の中、本シンポジウムへの参加に向けて資料作成および講演・パネルディスカッション参加を頂きました加藤先生に感謝の意を表します。

またパネルディスカッションへご参加を頂きました、国交省の多田管理企画指導室長、荒尾市の宮本副主任、豊田市の山北担当長、水道塾の小澤塾長、インフロニア・ホールディングスの大塚部長にはひとかたならぬお世話になりました。ありがとうございました。